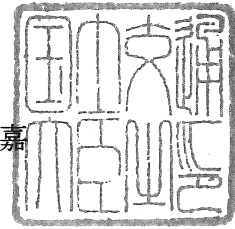


認 定 書

国住参建第 839 号
令和 3 年 9 月 6 日

吉野石膏株式会社
代表取締役 須藤 永作 様

国土交通大臣 赤羽 一嘉



下記の構造方法等については、建築基準法第 68 条の 25 第 1 項（同法第 88 条第 1 項において準用する場合を含む。）の規定に基づき、同法第 2 条第八号並びに同法施行令第 108 条第一号及び第二号（外壁（耐力壁）：各 30 分間）の規定に適合するものであることを認める。

記

1. 認定番号
PC030BE-3965(1)
2. 認定をした構造方法等の名称
人造鉱物繊維断熱材充てん／鋼板・ボード用原紙張ガラス繊維混入せっこう
板表張／せっこうボード裏張／木製軸組造外壁
3. 認定をした構造方法等の内容
別添の通り

（注意）この認定書は、大切に保存しておいてください。

別添

1. 構造名

人造鉱物繊維断熱材充てん／鋼板・ボード用原紙張ガラス繊維混入せっこう板表張／せっこうボード裏張／木製軸組造外壁

2. 寸法

壁高及び壁幅については、構造計算等により構造安定性が確かめられた寸法とする。

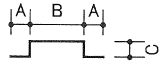
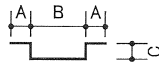

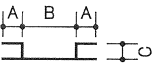
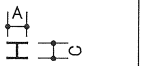
3. 材料構成等

項 目	製 品 仕 様
① 外 装 材	<p>鋼板</p> <p>材料名及び規格：a から m のいずれかによる。</p> <p>a. 熔融亜鉛めっき鋼板(JIS G 3302)</p> <p>b. 高耐候性圧延鋼材(JIS G 3125)</p> <p>c. 塗装熔融亜鉛めっき鋼板(JIS G 3312)</p> <p>d. 電気亜鉛めっき鋼板(JIS G 3313)</p> <p>e. 熔融アルミニウムめっき鋼板(JIS G 3314)</p> <p>f. 熔融亜鉛-5%アルミニウム合金めっき鋼板(JIS G 3317)</p> <p>g. 塗装熔融亜鉛-5%アルミニウム合金めっき鋼板(JIS G 3318)</p> <p>h. 熔融 55%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板(JIS G 3321)</p> <p>i. 塗装熔融 55%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板(JIS G 3322)</p> <p>j. 熔融亜鉛-アルミニウム-マグネシウム合金めっき鋼板(JIS G 3323)</p> <p>k. 塗装ステンレス鋼板(JIS G 3320：フェライト系、マルテンサイト系に限る。)</p> <p>l. 熱間圧延ステンレス鋼板(JIS G 4304：フェライト系、マルテンサイト系に限る。)</p> <p>m. 冷間圧延ステンレス鋼板(JIS G 4305：フェライト系、マルテンサイト系に限る。)</p> <p>化粧仕様</p> <p>塗料の種類</p> <p>エポキシ樹脂系、アクリル樹脂系、フェノール樹脂系、油性系、ビニルブチラール樹脂系、アルキド樹脂系、ポリウレタン樹脂系、フッ素樹脂系、シリコン樹脂系、塩化ビニル樹脂系、ポリエステル樹脂系、アクリルウレタン樹脂系、アクリルシリコン樹脂系、無機質系、化粧なし</p> <p>塗布量(g/m²)：121(±12.1)以下(表裏面合計有機固形分量)</p> <p>厚さ(mm)：0.27(±0.03)以上</p> <p>大きさ(mm)</p> <p>働き幅：100(±10)～900(±90)(一般部における寸法を示す。)</p> <p>断面形状：a 又は b のいずれかによる。</p> <p>a. 平板</p> <p>b. 凹凸板</p> <p>山高さ(mm)：2(±0.2)以上</p> <p>張方：横張</p> <p>横目地の種類：下記のいずれかによる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・突付け目地 ・差込目地 ・嵌合差込目地 ・重ね目地 ・ハゼ締目地 <p>縦目地の種類：下記のいずれかによる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目透かし目地(目地幅 40(±4)mm以下) ・金属製ジョイナー目地 ・重ね目地 ・突付け目地

項 目	製 品 仕 様
① 外装材 外装下地材	<p>種類、規格等：a から c のいずれかによる。</p> <p>a. ボード用原紙張ガラス繊維混入せっこう板 規格：準不燃材料認定番号 QM-0954-1 形状：平板 端部の形状：スクエアー、テーパー又はベベル 厚さ(mm)：9.5(±0.95) 密度(g/cm³)：0.8(±0.08)</p> <p>b. ボード用原紙張ガラス繊維混入せっこう板 規格：準不燃材料認定番号 QM-0955-1 形状、端部の形状及び密度は前記の a に同じ。 厚さ(mm)：9.5(±0.95)～12.5(±1.25)</p> <p>c. 両面ボード用原紙張せっこう板 規格：不燃材料認定番号 NM-4127 形状及び端部の形状は前記の a に同じ。 厚さ(mm)：9.5(±0.95)～12.5(±1.25) 密度(g/cm³)：1.0(±0.1)</p> <p>横目地数：1本(1列)(あり又はなし) (横目地数は、壁高さ(土台と横架材等の間の寸法)が3,000mm以下の場合における本数(列数)を示す。)</p>
② 木製下地材	<p>種類：a から d のいずれかによる。</p> <p>a. 構造用集成材(JAS) b. 構造用製材(JAS) c. 構造用単板積層材(JAS) d. 平成12年建設省告示第1452号第五号に規定する無等級材又は第六号に規定する木材</p> <p>断面寸法(mm)：105以上×105以上 密度(g/cm³)：0.34(±0.04)以上 取付け間隔(mm) 柱と間柱の間隔：500(±50)以下(一般部における寸法を示す。)</p> <p>中間柱</p> <p>種類：a から e のいずれかによる。</p> <p>a. 構造用製材、造作用製材又は下地用製材(JAS) b. 構造用集成材又は造作用集成材(JAS) c. 構造用単板積層材又は造作用単板積層材(JAS) d. 枠組壁工法構造用製材及び枠組壁工法構造用たて継ぎ材(JAS) e. 平成12年建設省告示第1452号第五号に規定する無等級材又は第六号に規定する木材</p> <p>断面寸法(mm)：45以上×105以上 取付け間隔(mm) 中間柱と間柱の間隔：500(±50)以下(一般部における寸法を示す。) 中間柱と柱の間隔、又は間柱を介する場合の中間柱相互の間隔：1,000(±100)以下(一般部における寸法を示す。)</p> <p>間柱</p> <p>種類：前記の中間柱の種類に同じ。 断面寸法(mm)：27以上×105以上 取付け間隔(mm) 間柱と柱又は中間柱の間隔：500(±50)以下(一般部における寸法を示す。)</p>

項 目	製 品 仕 様
③ 中空部 断熱材	種類、規格等：a 又は b のいずれかによる。 a. グラスウール 規格：JIS A 6301、JIS A 9504 又は JIS A 9521 厚さ(mm)：50(±5)以上 密度(kg/m ³)：10(±2)以上 b. ロックウール 規格：JIS A 6301、JIS A 9504 又は JIS A 9521 厚さ(mm)：50(±5)以上 密度(kg/m ³)：20(±2)以上
④ 内装材	規格：JIS A 6901(せっこうボード製品) 形状：平板 表面の形状：平滑 端部の形状：スクエアー、テーパー又はベベル 厚さ(mm)：9.5(±0.5)～25(±0.5) 密度(g/cm ³)：0.65 以上 横目地数：1本(1列)(あり又はなし) (横目地数は、壁高さ(土台と横架材等の間の寸法)が3,000mm 以下の場合における本数(列数)を示す。)

項 目	製 品 仕 様
⑤ 副 構 成 材 料	<p>種類：a から i のいずれかによる。</p> <p>a. 製材(無等級材又は JAS) b. 集成材(無等級材又は JAS) c. 構造用合板(JAS) d. 化粧ばり構造用合板(JAS) e. 普通合板(JAS) f. 構造用パネル(JAS) g. 単板積層材(JAS) h. パーティクルボード(JIS A 5908) i. MDF (JIS A 5905)</p> <p>断面寸法(mm) 一般部：12(±1.2)以上×40(±4)以上 鋼板縦目地部：a 又は b のいずれかによる。 a：12(±1.2)以上×80(±8)以上の1列使い b：12(±1.2)以上×40(±4)以上の2列使い 取付け間隔(mm)：500(±50)以下</p>
受材及び胴つなぎ(必要に応じて取付ける。)	<p>種類：前記の中間柱の種類に同じ。 断面寸法(mm)：27(±2.7)以上×27(±2.7)以上</p>
防水紙(必要に応じて取付ける。)	<p>種類：a 又は b のいずれかによる。</p> <p>a. 透湿防水シート(JIS A 6111) 厚さ(mm)：0.5(±0.05)以下 b. 透湿防水シート(アルミニウム層付き) 厚さ(mm) ・基材：0.5(±0.05)以下 ・アルミニウム層：0.01 以上</p>
防湿気密フィルム(必要に応じて取付ける。)	<p>種類：a から h のいずれかによる。</p> <p>a. 住宅用プラスチック系防湿フィルム(JIS A 6930) b. 包装用ポリエチレンフィルム(JIS Z 1702) c. 農業用ポリエチレンフィルム(JIS K 6781) d. ポリエチレン樹脂系 e. ポリエステル樹脂系 f. ポリプロピレン樹脂系 g. ポリアミド樹脂系 h. a～g にポリマーコーティングを施したもの 厚さ(mm)：0.2(±0.02)以下</p>

項 目	製 品 仕 様
⑤ 鋼板縦目地部処理材（必要に応じて処理する。） 副構材料	<p>種類：1), 2)の併用、1), 3)の併用又は3)のみのいずれかによる。</p> <p>1)シーリング材 規格：建築用シーリング材(JIS A 5758) 種類：下記のいずれかによる。 ポリウレタン系、シリコーン系、ポリイソブチレン系、変成シリコーン系、ポリサルファイド系、アクリルウレタン系又はアクリル系 充てん高さ(mm)：5(±0.5)以上</p> <p>2)バックアップ材 種類：下記のいずれかによる。 ポリエチレン系、ポリスチレン系、ポリプロピレン系、ポリエチレン酢酸ビニル系、ポリ塩化ビニル系、ポリエチレンテレフタレート系、ポリウレタン系、ポリオレフィン系、シリコーン系、アクリル系、フェノール系又は合成ゴム系 充てん厚さ(mm)：3(±0.3)以上</p> <p>3)金属製ジョイナー 種類及び規格：下記のいずれかによる。 ・溶融亜鉛めっき鋼板(JIS G 3302) ・塗装溶融亜鉛めっき鋼板(JIS G 3312) ・電気亜鉛めっき鋼板(JIS G 3313) ・溶融亜鉛-5%アルミニウム合金めっき鋼板(JIS G 3317) ・塗装溶融亜鉛-5%アルミニウム合金めっき鋼板(JIS G 3318) ・溶融55%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板(JIS G 3321) ・塗装溶融55%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板(JIS G 3322) ・溶融亜鉛-アルミニウム-マグネシウム合金めっき鋼板(JIS G 3323) ・熱間圧延ステンレス鋼板(JIS G 4304) ・冷間圧延ステンレス鋼板(JIS G 4305) ・ポリ塩化ビニル被覆金属板(JIS K 6744) 厚さ(mm)：0.2(±0.02)以上 形状及び寸法(mm)：形状は i) から v) のいずれかによる。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: flex-end;"> <div style="text-align: center;"> <p>i)</p>  </div> <div style="text-align: center;"> <p>ii)</p>  </div> <div style="text-align: center;"> <p>iii)</p>  </div> <div style="text-align: center;"> <p>iv)</p>  </div> <div style="text-align: center;"> <p>v)</p>  </div> </div> <p>A : 3(±1)以上、B : 40(±4)以下、C : 3(±1)以上</p>
面戸（必要に応じて取付ける。）	<p>種類：下記のいずれかによる。 ポリエチレン系、ポリスチレン系、ポリプロピレン系、ポリエチレン酢酸ビニル系、ポリウレタン系、シリコーン系、EPDM又は合成ゴム系</p>

項 目	製 品 仕 様
⑤ 副 構 成 材 料	<p>目地処理材(必要に応じて処理する。)</p> <p>外装下地材用 種類及び塗布量：種類は下記のいずれかによる。 種類：せっこう系又は炭酸カルシウム系 塗布量(g/m)：10(±1)以上</p> <p>せっこうボード用 種類及び塗布量：種類は下記のいずれかによる。 種類：せっこう系又は炭酸カルシウム系 塗布量(g/m)：10(±1)以上 ガラス繊維テープ又は紙テープの寸法(mm)：厚さ0.05(±0.01)以上、幅20(±2)以上</p> <p>目地処理方法 必要に応じて、目地処理材のみで又は目地処理材とガラス繊維テープ等を併用して処理する。</p>
留付け材	<p>鋼板固定用 種類及び寸法：a又はbのいずれかによる。 a. 鋼製又はステンレス鋼製くぎ 寸法(mm)：φ1.5(±0.2)以上×L16(±1.6)以上 b. 鋼製又はステンレス鋼製ねじ 寸法(mm)：φ2.1(±0.2)以上×L16(±1.6)以上 留付け間隔(mm)：鋼板の長さ方向1,500(±150)以下(鋼板の片側の長さ方向の両端部を含めた2本以上。必要に応じて働き幅方向に留付ける。)</p> <p>外装下地材固定用 種類及び寸法：a又はbのいずれかによる。 a. 鋼製又はステンレス鋼製くぎ 寸法(mm)：φ1.7(±0.2)以上×L25(±2.5)以上 b. 鋼製又はステンレス鋼製ねじ 寸法(mm)：φ2.1(±0.2)以上×L25(±2.5)以上 留付け間隔(mm)：200(±20)以下</p> <p>胴縁固定用 種類及び寸法：a又はbのいずれかによる。 a. 鋼製又はステンレス鋼製くぎ 寸法(mm)：φ2.75(±0.3)以上×L50(±5)以上 b. 鋼製又はステンレス鋼製ねじ 寸法(mm)：φ3.5(±0.4)以上×L50(±5)以上 留付け間隔(mm)：500(±50)以下</p> <p>受材固定用(受材を用いる場合に使用する。) 種類及び寸法：a又はbのいずれかによる。 a. 鋼製又はステンレス鋼製くぎ 寸法(mm)：φ1.8(±0.2)以上×L32(±3.2)以上 b. 鋼製又はステンレス鋼製ねじ 寸法(mm)：φ3.0(±0.3)以上×L32(±3.2)以上 留付け本数：片側1本以上</p>

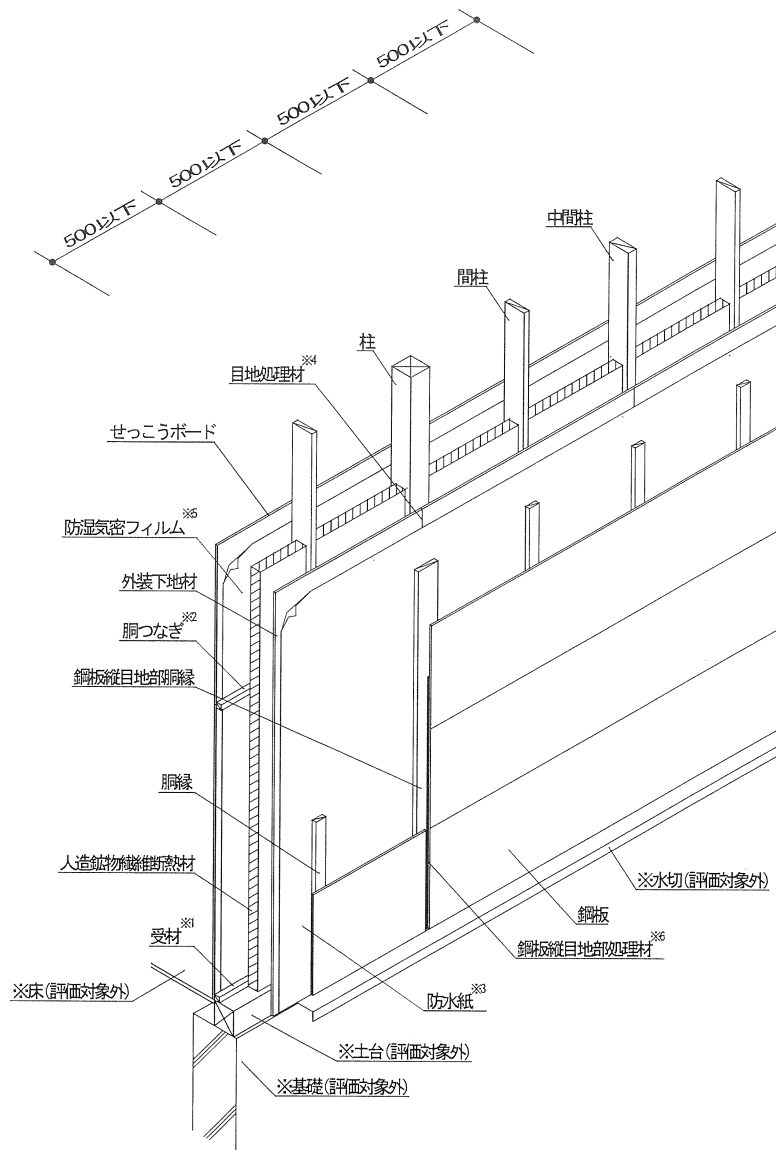
	項 目	製 品 仕 様
⑤ 副 構 成 材 料	留付け材	<p>胴つなぎ固定用(胴つなぎを用いる場合に使用する。) 種類及び寸法：前記の受材固定用に同じ。 留付け本数：片側 1 本以上</p> <p>防水紙仮留め用(防水紙を用いる場合に使用する。) 種類及び仕様：a から c のいずれかによる。</p> <p>a. ブチルゴムテープ又はアクリルテープ 寸法(mm)：厚さ 0.5(±0.1)以下、幅 50(±5)以下 貼付け間隔(mm)：455(±45.5)以上</p> <p>b. スプレーのり 塗布量(g/m)：30(±3)以下 塗布間隔(mm)：455(±45.5)以上</p> <p>c. ステープル 寸法(mm)：幅 10(±1)以上、長さ 6(±1)以上</p> <p>防湿気密フィルム仮留め用(防湿気密フィルムを用いる場合に使用する。) 種類及び仕様：a から c のいずれかによる。</p> <p>a. ブチルゴムテープ又はアクリルテープ 寸法(mm)：厚さ 0.5(±0.1)以下、幅 50(±5)以下 貼付け間隔(mm)：500(±50)以上</p> <p>b. スプレーのり 塗布量(g/m)：30(±3)以下 塗布間隔(mm)：500(±50)以上</p> <p>c. ステープル 寸法(mm)：幅 10(±1)以上、長さ 6(±1)以上</p> <p>人造鉱物繊維断熱材仮留め用(必要に応じて使用する。) ステープル 寸法(mm)：幅 10(±1)以上、長さ 6(±1)以上</p> <p>せっこうボード固定用 鋼製又はステンレス鋼製ねじ 寸法(mm)：φ3.8(±0.4)以上×L25(±2.5)以上 留付け間隔(mm)：200(±20)以下</p>

4. 構造説明図

4. 1

①透視図（屋外側）

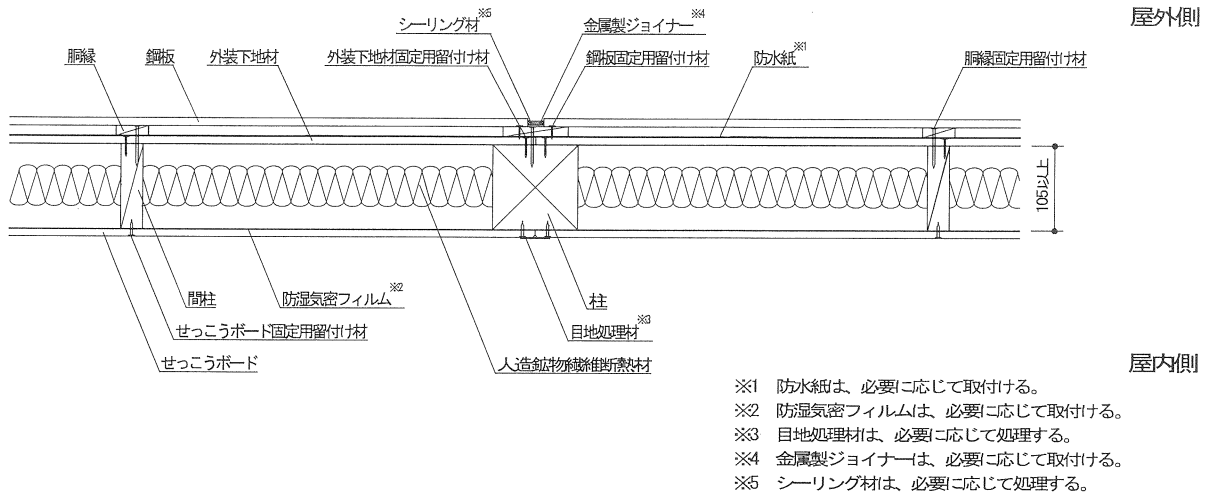
(単位：mm)



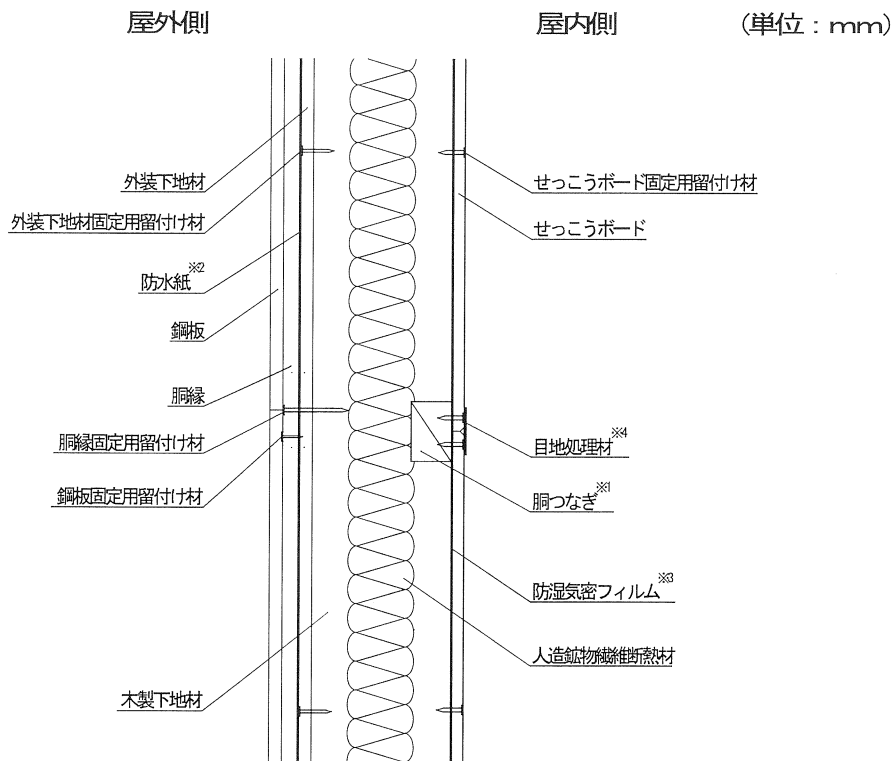
- ※1 受材は、必要に応じて取付ける。
- ※2 胴つなぎは、必要に応じて取付ける。
- ※3 防水紙は、必要に応じて取付ける。
- ※4 目地処理材は必要に応じて処理する。
- ※5 防湿気密フィルムは、必要に応じて取付ける。
- ※6 鋼板縦目地部処理材は、必要に応じて取付ける。

②水平断面図

(単位：mm)



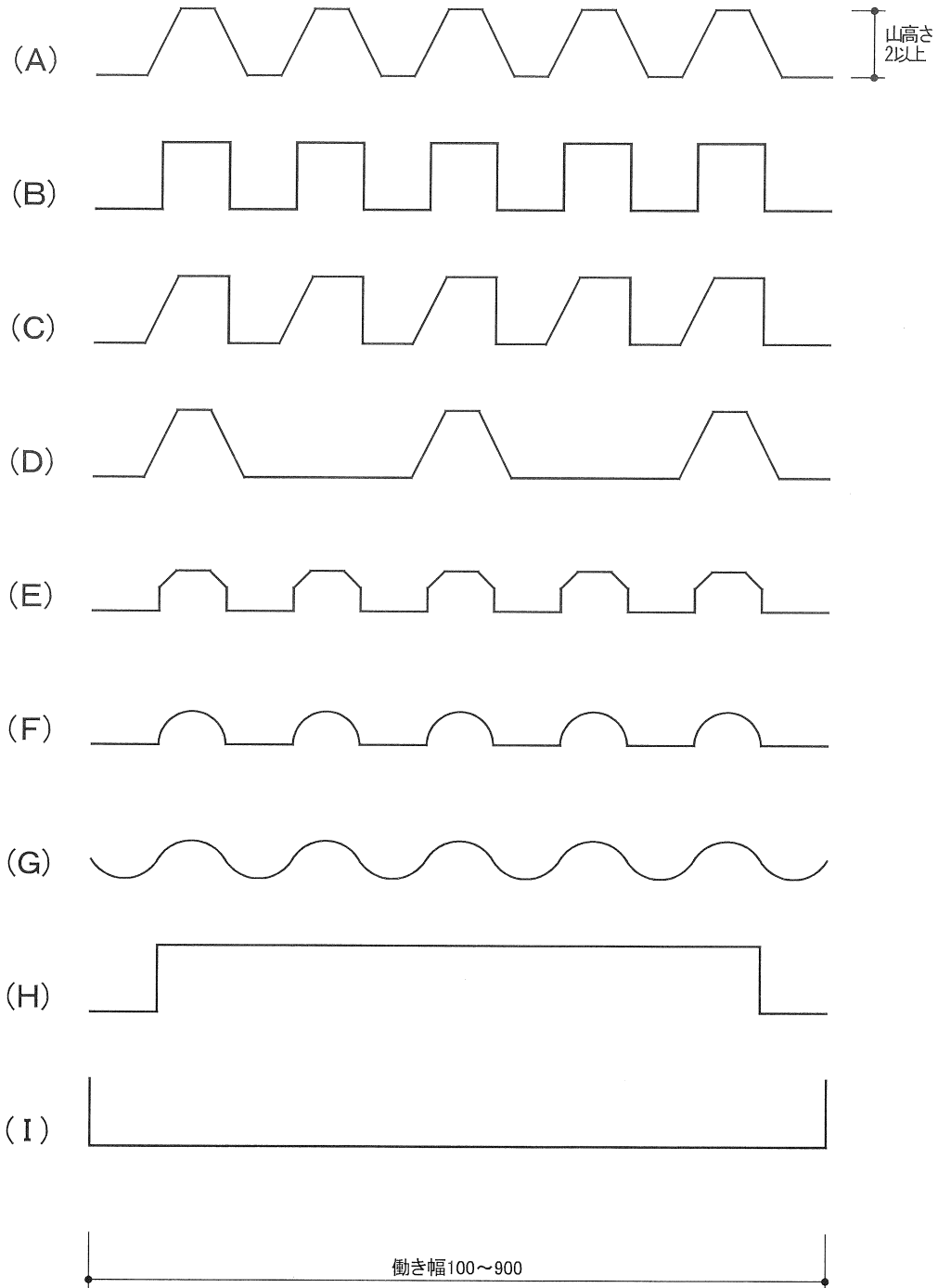
③鉛直断面図



- ※1 胴つなぎは、必要に応じて取付ける。
- ※2 防水紙は、必要に応じて取付ける。
- ※3 防湿気密フィルムは、必要に応じて取付ける。
- ※4 目地処理材は、必要に応じて処理する。

4. 2 鋼板（凹凸板）の断面形状の例

（単位：mm）



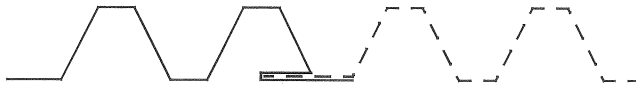
※端部の形状は横目地の種類による。
 ※各種リップ付きを含む。
 ※各種キャップ付きを含む。
 ※各種形状を組み合わせたものを含む。
 ※断面形状は上記(A)～(I)に限定されない。

4. 3 鋼板の横目地の種類 (概略図)

突付け目地
(形状 (A) の場合の例)



差込目地
(形状 (A) の場合の例)



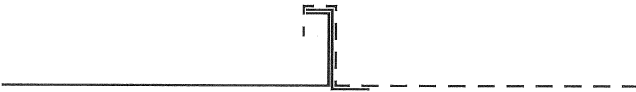
勘合差込目地
(形状 (A) の場合の例)



重ね目地
(形状 (A) の場合の例)



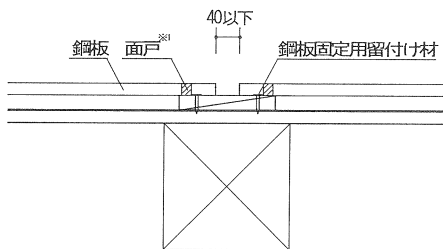
ハゼ締目地
(形状 (I) の場合の例)



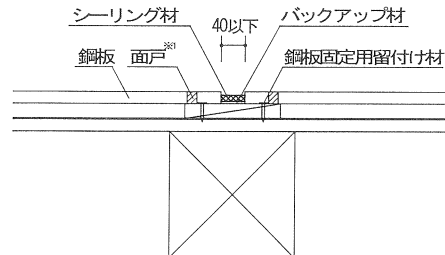
4. 4 鋼板の縦目地の概略図

(単位 : mm)

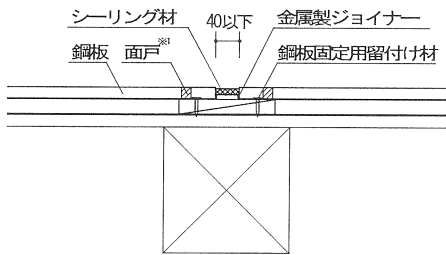
① 目透かし目地



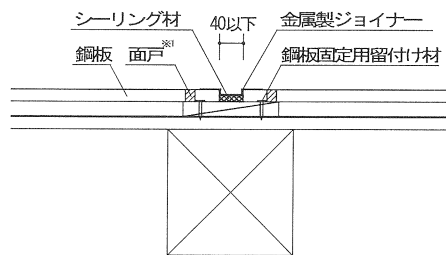
② 目透かし目地
(バックアップ材+シーリング材)



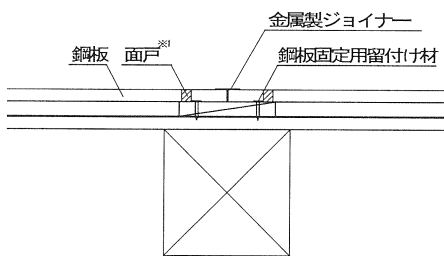
③ 目透かし目地
(金属製ジョイナー(「L」形、「U」形)+シーリング材)



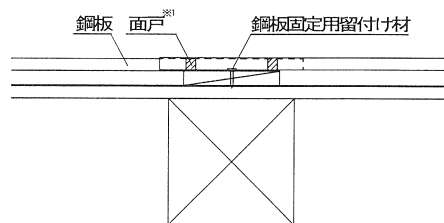
④ 目透かし目地
(金属製ジョイナー(「L」形、「U」形)+シーリング材)



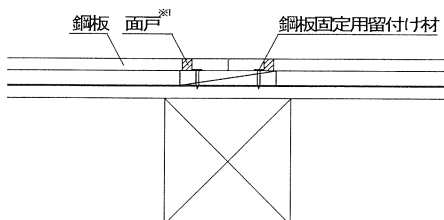
⑤ 金属製ジョイナー目地



⑥ 重ね目地



⑦ 突付け目地



※1 面戸は必要に応じて取付ける。

5. 施工方法

(1) 木製下地材の組立て

柱を土台に取付ける。柱と柱の間に断面寸法が 27mm 以上×105mm 以上の間柱を 500mm 以下の間隔で配置し、土台に取付ける。この時、外装下地材又は内装材の縦目地部となる位置には断面寸法が 45mm 以上×105mm 以上の中間柱又は柱を使用する。必要に応じて、内装材の受材を柱、土台又は横架材等に $\phi 1.8$ mm 以上×L32 mm 以上の鋼製くぎ等で取付ける。必要に応じて、胴つなぎを外装下地材又は内装材の横目地となる位置に配置し、 $\phi 1.8$ mm 以上×L32mm 以上の鋼製くぎ等で、片側 1 本以上、柱、間柱、中間柱等に取付ける。

(2) 外装下地材の取付け

外装下地材をあらかじめ現場の寸法に合わせて切断し、 $\phi 1.7$ mm 以上×L25 mm 以上の鋼製くぎ等で、200mm 以下の間隔で木製下地材に留付ける。必要に応じて、横目地を設ける場合は、高さ 3,000 mm に対して 1 本とする。

なお、外装下地材の目地部は、必要に応じて目地処理材を施し、平滑に仕上げる。

(3) 防水紙の仮留め

必要に応じて、防水紙をたるみ、しわ等が生じないようにブチルゴムテープ等で外装下地材に仮留めする。継ぎ目の重なりは 200mm 以下とする。

(4) 胴縁の取付け

胴縁は、幅 40mm 以上のものを 500mm 以下の間隔で、 $\phi 2.75$ mm 以上×L50mm 以上の鋼製くぎ等で 500mm 以下の間隔で柱、間柱又は中間柱に留付ける(必要に応じて胴縁に下穴を開ける)。なお、鋼板において、縦目地を設ける箇所には、幅 80 mm 以上のもの 1 列又は幅 40 mm 以上のもの 2 列を配置する。

(5) 鋼板の取付け

鋼板の張り方は横張とする。

鋼板をあらかじめ現場の寸法に合わせて切断し、取付けは $\phi 1.5$ mm 以上×L16mm 以上の鋼製くぎ等を用いて、鋼板の長さ方向 1500 mm 以下の間隔で胴縁に留付ける。必要に応じて、鋼板の縦目地の目地処理は、以下の方法で行う。

①目透かし目地

目透かし目地を設ける場合には、目地幅 40 mm 以下になるように鋼板を取付け、バックアップ材、金属製ジョイナー等を併用して、シーリング材を充てんする。

②金属製ジョイナー目地

金属製ジョイナーに鋼板をはめ込み、鋼板を留付けて取付ける。

③重ね目地

目地部において、左右の鋼板を重ね合わせ、鋼板を留付ける。

④突付け目地

目地部において、鋼板に隙間が生じないように突付けて、鋼板を留付ける。

(6) 中空部断熱材の挿入

人造鉱物繊維断熱材を柱、間柱、中間柱等の間に挿入し、必要に応じてステーブルを用いて仮留めする。

(7) 防湿気密フィルムの仮留め

必要に応じて、防湿気密フィルムをたるみ、しわ等が生じないようにブチルゴムテープ等で柱、間柱、中間柱等に仮留めする。継ぎ目の重なりは 100mm 以下とする。

(8) せっこうボードの取付け

せっこうボードを、あらかじめ現場の寸法に合わせて切断し、 $\phi 3.8$ mm 以上×L25 mm 以上の鋼製ねじ等で 200mm 以下の間隔で柱、間柱、中間柱、受材、胴つなぎ等に留付ける。

なお、せっこうボードの目地部は、必要に応じて目地処理材を施し、平滑に仕上げる。